

「高校生のための心理学講座」の  
発展小史と展望

日本心理学会では全国各地で「高校生のための心理学講座」を開設しています。この企画の発端は2011年8月20日（土）に開催された日本学術会議との共催公開シンポジウム「いま、何故、心理学教育を高校に導入する必要があるのか？」（企画：利島保\*・長谷川寿一・仁平義明・内田伸子・佐藤隆夫）でした。参加者131名という大盛況のシンポジウムでした。\*本稿敬称略

6名の話題提供者から高校生の心理学教育の内外の実践、教科書の内容分析の報告がありました。その後しめくくりの質疑応答や全体討論も活発でした。高校教員たちからは「心理学を希望する生徒が多いが、高校時代に心理学はどんな学問分野か知らない人が多い。資格はとれるか、就職はいいか、専門を活かせる職場はあるかなどについて知りたい……心理学は星占いのようなイメージをもっている生徒が多い」などの意見・要望が出されました。このシンポジウムを受けて佐藤理事長からの呼びかけもあり高校生のための心理学講座が始まりました。

2012年度（初年度）は、北海道、東北、関東Ⅰ、Ⅱ、中部、関西、中国・四国、九州・沖縄、計8ヵ所で「90分授業・6講座・連続2日間＋昼休みには進路相談」という欲張った企画でスタートしました。2年目は初年度の問題点を改善して、各地の交通の便が良い大学を会場に、文化祭や模擬試験などと重ならない日を選び、50分・6講義・1日で開催することにしました。2013年度は、北海道、東北、関東Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、中部Ⅰ、Ⅱ、関西、中国・四国、九州・沖縄Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、計12ヵ所。2014年度は、北海道、東北、関東Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、中部Ⅰ、Ⅱ、関西Ⅰ、Ⅱ、中国・四国Ⅰ、Ⅱ、九州・沖縄Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、合計14ヵ所と増えました。

各地区の担当者の努力のおかげで高校生講座はその完成形に到達したと思います。例えば、私も講師を務めた関東Ⅰ（法政大学）の講座（コーディネーター：池田まさみ）では、①「心理学研究法」（池田まさみ）、②「社会心理学」（森津太子）、③「認知心理学」（越智啓太）、④「発達心理学」（内田伸子）、⑤「臨床心理学」（伊藤美奈子）、⑥「教育心理学」（市川伸一）の6

講義と「討論セッション」という構成で開催しました。参加者の声をご紹介します。

「初めて本格的な心理学の講座を聞くことができ、とてもよい経験になりました。自分は心理学を学びたいと思っていたのですが、詳しい分野についてよくわかっていませんでした。今日の講座を聞いて、特に興味のある分野が見つかりました。自分のやりたいことを大学できちんと学べるように、受験勉強頑張りたいです。ありがとうございます。」〔高2〕、「今まで分野によってどんなことを研究するのかわからなかったのですが、今回の講座を受けて、それぞれのおもしろいところ、興味がわくところを見つけることができました。心理学の、他人の思考を理解することだけでなく、自分自身を理解することにつながるところが面白い点だと思いました。ありがとうございます。」〔高2〕、「どの講義も具体的な問題などが多く、わかりやすく、とても楽しかったです。心理学について、あまりくわしくなく興味があるだけでしたが、この講座を受講して、心理学の専攻のある大学について調べて進学したくなりました。ありがとうございます。」〔高1〕、「心理学の事がすごくわかりました。聞く前よりも興味が増して将来につなげていけたらいいなと思いました。自分が知っていた（というか、ほんやり想像していた）心理学よりも、もっと内容が深くて難しそうだなと思いましたが、実験など色々なことをやって理解すると知識が広がって面白そうだなと思いました。楽しい講義をありがとうございました。」〔高1〕

これらの感想から、高校生講座の狙いが達せられたという確かな手ごたえを感じ取ることができました。

2014年度は「高校生のための心理学講座」（14講座）、「社会のための心理学シリーズ」（3講座）、さらに「科学としての心理学シリーズ」（2講座）を開講していますが、今後もこのような講座を開講してまいります。各地区の会員の皆様にはこれらの講座に講師としてご登壇いただき、「こころの不思議を解き明かす」「実証科学」としての心理学のおもしろさを高校生や市民の皆様にご伝えていただけるようご協力をお願いしたいと思います。

（日本心理学会教育研究委員会担当常務理事・十文字学園女子大学特任教授 内田伸子）